

### 第3 各事業評価の手法等

#### 1 趣旨

市では、災害からの復旧・復興に向けたまちづくりを推進するための指針として、復興計画を定め、その進捗状況を確認しながら事業を進めてきました。

計画期間は令和元年度から令和6年度までの6年間ですが、3年目の節目となる短期計画期間の令和3年度末の状況<sup>※1</sup>を評価・検証し、必要に応じて計画の見直しを行うことにしました。したがって、計画に掲げた事業の令和3年度末における各施策の進捗や今後の方針をまとめたものが、復興まちづくり計画評価書（以下、「評価書」と言います。）となります。

#### 2 実施手法・体制

##### (1) 復興計画と評価書の位置づけ

復興計画と評価書の関係については、次の通りです。

復興計画は現行のまま継続します。計画に掲げた「主な施策」については、取組状況や今後の方針、評価点数等について各評価シートに明記します。したがって、復興計画と評価書の二つを照らし合わせて確認することで復興状況がより理解できるものとなります。

これまでに事業を推進してきた中で、完了したものもあれば、今後も継続して推進すべき事業もあります。各評価シートにより内容が把握できるよう必要事項を取りまとめます。

##### (2) 評価対象事業

評価シートに記載する事業は、復興計画第4章に掲げた「主な施策」の142事業とします。第5章地区別計画においては、復興方針図にとりまとめた主な復旧事業の進捗状況を示しました。また特に被害が大きかった宇和町地域岩木地区、宇和町地域明間地区、野村町地域野村地区の3地区については別に実績をまとめ総合的な評価を行いました。第2章災害の概要で示した各種数値については、時間の経過とともに変動が生じた部分を別に取りまとめます。

##### (3) 評価基準

評価シートにおいて記載する項目は7項目で、「活動と内容」、「活動指標」、「成果指標」、「取組状況」、「評価点数/評価区分」、「評価理由」、「今後の方針」とし、それらを実行する評価点数については、下記の基準に基づき評価しました。

評価区分	評価基準	評価点数
順調	進捗状況が完了の事業。又は、継続の事業で、実施状況から見て、順調であると判断されるもの。	3点
概ね順調	進捗状況が継続の事業で、実施状況から見て、概ね順調であると判断されるもの。	2点
やや遅れている	進捗状況が継続の事業で、実施状況から見て、やや遅れていると判断されるもの。	1点
遅れている	進捗状況が継続または未着手の事業で、実施状況から見て、遅れていると判断されるもの。	0点

<sup>※1</sup>数値などの実績については令和3年12月末時点とした。

#### (4) 外部評価者

外部総評に記載した松村暢彦教授以外にも、音楽アーティストとして、復興ソングの制作や復興コンサートの実施により精神的支援を継続いただいている INSPi リーダー杉田篤史氏及び野村町出身のシンガーソングライターYurica。氏からは音楽による復興支援の取組みについて報告書を取りまとめていただきました。

### 3 評価する各章一覧

復興計画に記載されている第1章から第6章までの項目について、各章ごとに評価を行います。

第1章 はじめに
1 計画策定の趣旨
2 計画の役割と位置づけ
第2章 災害の概要
1 平成30年7月豪雨
2 被害状況
3 応急・復旧、被災者支援の取組み状況
第3章 復興に向けた基本的な考え方
1 復興の基本理念
2 復興の目標
3 復興の施策体系
第4章 基本施策
各事業の評価シート（別冊「主な施策（142事業）評価シート」参照）
第5章 地域別の復興方針
1 地域区分
2 地域別の復興方針
第6章 計画の推進、進捗管理
1 計画の推進
2 進捗管理